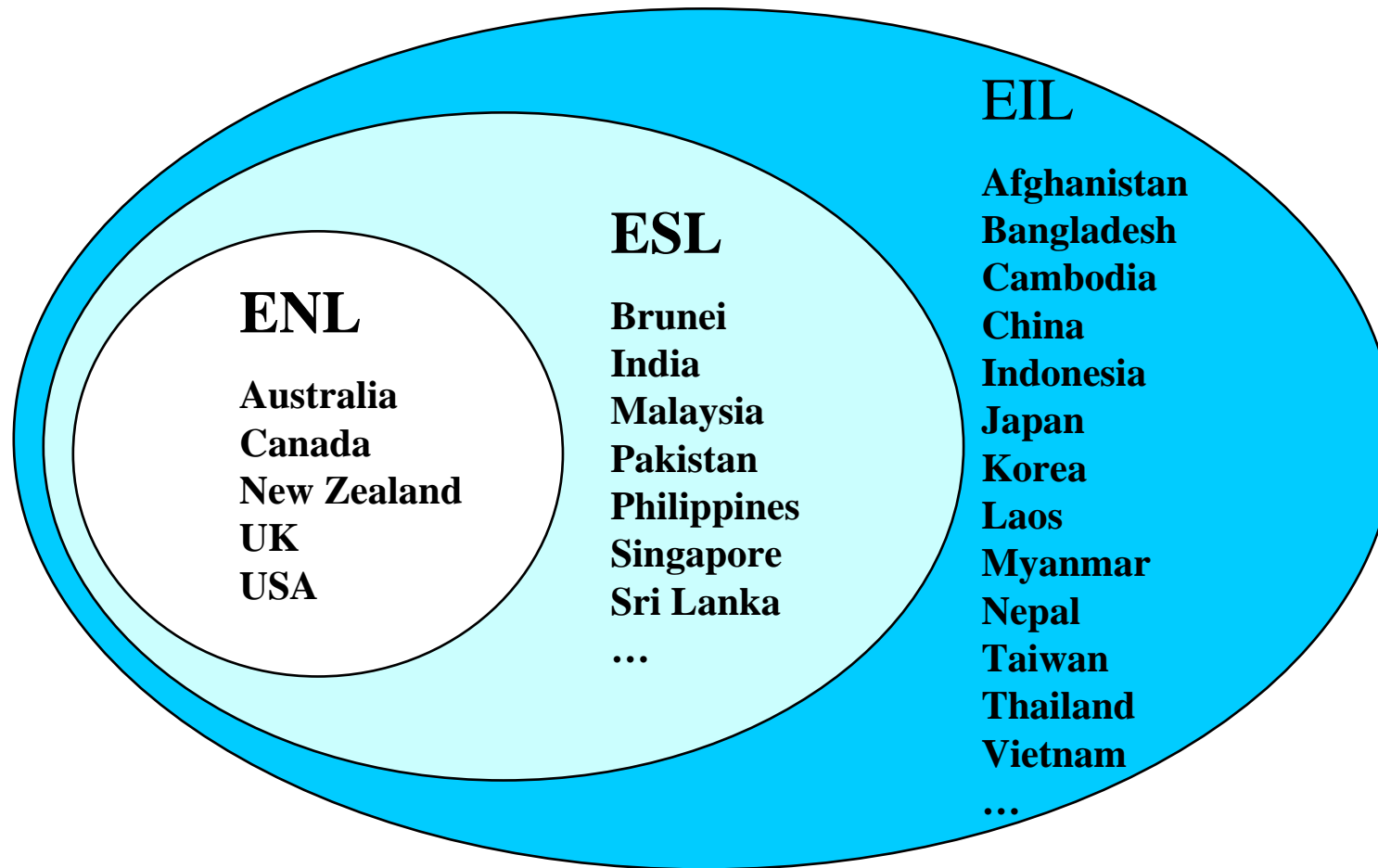


アジア諸国における英語教育の取組み 英語非公用語国を中心として

英語教育に関する第5研究グループ

本名信行(青山学院大学)
nyhonna@a2en.aoyama.ac.jp

英語とアジア



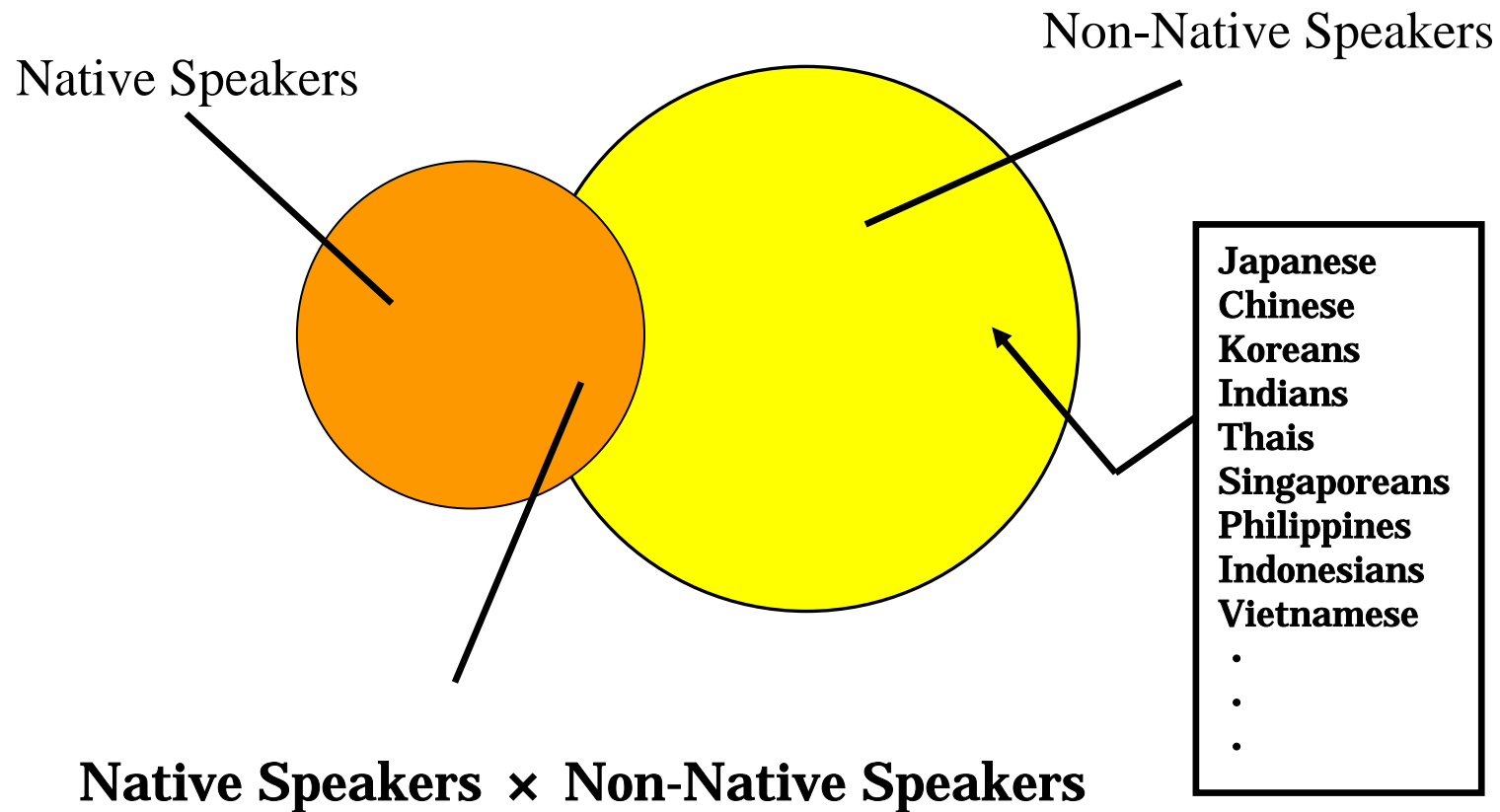
ENL= English as a native language

ESL= English as a second language

EIL= English as an international language

アジア人どうしの英語コミュニケーション

現代英語の特徴: 話し手の数はネイティブよりもノンネイティブのほうが多く、
非母語話者どうしの英語コミュニケーションが増えている



中国1 (一貫教育)

- ・英語は「近代化と経済発展」の言語
- ・英語学習者人口は3億から3億5千万人
- ・小学校から大学院まで必修科目
- ・2001年、全市、全郡で小学校3年から開始
(主要都市では小学校1年からが普通)
- ・週4時間(1時間は40分)を基準

中国2 (レベル指定)

・教育部「義務教育段階における英語科基準」
英語力9レベルを設定

小学校卒業時	レベル2
中学卒業時	レベル5
高校卒	レベル8
高校優等卒	レベル9

・大学入試全国統一試験ではリスニングとライティングもあり、**コミュニケーション能力の育成**を目標

中国3 (大学英語試験)

- ・1987年から、大学でも6バンドを設定
- ・**College English Test(Band4)の合格**が卒業要件
- ・毎年6百万人の学生がこれを受験
- ・"No CET 4/6 certificate, no graduation diploma."

レベル	語彙数
高校卒業	3,200語
CET Band 4	4,200語
CET Band 6	5,500語

中国4 (企業)

- ・中国WTO加入と**英語熱** (Cf. *Crazy English*)
 - ・1999年、教育部監督下に、**China Public English Test System (PETS)**を創設
 - ・英語力をレベル1からレベル5に分けて認定
 - ・4技能を**コミュニカティブな観点から測定**
 - ・企業が重視
-

・その他、日本語とロシア語についても同様のガイドラインがあり、英語と同等に小3から開始することが可能であるが、英語の人気が高く、ほとんどの生徒が英語を選択

韓国1 (90年代の改革)

- ・90年代に英語教育の抜本的な改革に着手
- ・その1つが小学校英語教育の導入
- ・小3より、週2時間
- ・4年間で500語の語彙

小3 (1年目)	Spoken Englishのみ
小4	アルファベットの読み
小5	単語の読み、アルファベットの書き
小6	単文の読み、書き

- ・クラス担任から専科へ

韓国2 (中学、高校英語)

- ・ 中高ではコミュニケーション重視 週4時間
- ・ 教科書は日本3倍量

教科書内容

- ・ 韓国の伝統、風物、人物、言語等の紹介
- ・ 道徳的
- ・ 教訓的

韓国3 (大学入試統一試験)

- ・1993年開始の大学修学能力試験 (CSAT)
「英語」でリスニング導入
- ・全問中20%強
- ・未完成の会話を完成させる問題も含み、
間接的にスピーキングと連動
- ・リーディングは60%
- ・全体的にコミュニケーションを重視
- ・高校英語教育に大きな影響を与える
- ・生徒が文法と語彙の正確な知識に欠ける、
という批判もある

韓国4 (大学)

- ・大学では、卒業要件として、相当の英語力を求める大学が増大

延世大での医学部予科から本科に進学

TOEFL 550点以上

TOEIC 700点以上

- ・小中高の英語教育が望ましい方向に進展すれば、大学ではバランスのとれたcommunicative and academic English の育成が可能という認識

韓国5 (教員養成)

英語教員を養成する大学や学部では、
1996年の教育省のイニシアティブに従い、
伝統的な文学、言語学中心

英語運用能力と英語教授法の習得に力点

韓国6 (第7次カリキュラム改正)

- ・第7次カリキュラム改正(小中校2001年、高校2003年適用)では、**小中高一貫**を目指す

1-10年	国民共通基本教育課程
11-12年	高校選択中心教育課程

- ・**文法・機能シラバス**を採用
- ・国民共通課程では、79のコミュニケーション機能と347の例文を指定
- ・小3から高1の各学年に配置
- ・中高で第2外国語(日本語、中国語、ロシア語、ドイツ語、フランス語)が選択必修(中高各6単位)

台湾1 (小学英語)

- ・英語はLWC
- ・台湾を Asian-Pacific Regional Operation Center に仕立てる構想のなかで、English as an official language の提案
- ・郷土諸語(台湾語等)、北京語、英語の関係
- ・1998年、台北市が小学校3年より英語導入
- ・2001年、全国で小5より
- ・最少週2時間
- ・各市の自由裁量、台北市は小1より(2002年)

台湾2 (中高英語)

- ・小学英語は中学英語の基礎という位置づけ

中学	週3時間必修	1～2時間選択必修
高校	週5時間必修	4～8時間選択必修

- ・教科書、ワークブックともに大量
- ・大学入試センター「英語」ではライティングを出題
- ・中高に第2外国語の選択必修

タイ1 (小中高一貫カリキュラム)

- ・英語教育は小学1年(1995年導入)から大学院まで
- ・小中高一貫した「基礎教育カリキュラム」

4つのレベルと学習時間		
初等1 - 3年	準備レベル	週 6コマ (20分x 6)
初等4 - 6年	初級レベル	週15コマ (20分x15)
中等1 - 3年	発展レベル	週 6コマ (50分x 6)
中等4 - 6年	拡大レベル	週 6コマ (50分x 6)

- ・各レベル修了時の達成目標を明示

タイ2 (目的と基準)

- ・英語学習の4つの目的、その8つの基準を各レベルごとに明示
- ・コミュニケーションのための英語
- ・基準1.3
さまざまな話題に関する情報、考え、概念を効果的に提供するために十分なスピーキングとライティングのプロセスを理解する

タイ3(目的と基準)の続き

例 「中等教育1 - 3年」

(1)情報・短い話・日常生活の活動・一般的な出来事を提示できる

(2)個人的な経験や多様な出来事に関する概念を提示できる

(3)地域と世界の多様な出来事に関する意見を創造的に提示できる

(4)関心に応じて歌・寸劇・出来事・詩・多様なメディアからの情報を楽しく提示できる